

特集 3 更年期からの性差医学



あきした まさひろ

秋下 雅弘

東京都健康長寿医療センター 理事長 / センター長
東京大学 名誉教授

要旨

近年、同一疾患でも男女で発症頻度や病態、治療効果が異なることが明らかとなり、性差医学に注目が集まっている。更年期は女性の健康が大きく変化する時期であり、エストロゲン分泌低下により動脈硬化、骨粗鬆症、うつ病などのリスクが上昇する。また、心疾患や認知症、フレイルなどでも性差は顕著で、特に女性では非典型的な症状や社会的背景が診療に影響する。薬物動態の性差も無視できず、性別に応じた診療が求められる。性差医療は個別化医療の基盤であり、全医療者に必要な視点である。

キーワード

閉経, ジェンダー, フレイル, 介護, 認知症